

広濟寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣濟寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

http://kosaiji.net/

法座のご案内

報恩講

十一月五日(土)・六日(日)

午前九時半・午後二時より

五日(土)午後七時より

仏教婦人会報恩講



今号の法語

宗教のことばは

時代をこえて

ひびき

科学のことばは

時代とともに

かわる

東昇

内容・第二次五位組大遠忌団体参拝情報
内・過去の大遠忌を振り返るく五十年前
号・仏事のQ&A く蠟燭の色・種類く
今・仏具のおみがきをしてみませんか？

今回は科学者で医学者でもある東昇先生の言葉です。

先日、光よりも速い物質を観測したとの発表がありました。

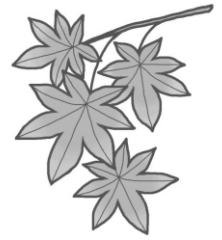
「素粒子ニュートリノ」。ノーベル賞をとった小柴昌俊先生でも有名なこの物質。もし今回の発表が正しかったならば、今までの物理学を根底から覆すものになるそうです。過去のタイムマシンも理論的には可能になるとのこと。アインシュタイン博士もびっくりしていることでしょう。

科学の進歩は目覚ましいものです。どんどん新しいことが発見され今まで定説だと思われていたものが覆されていきます。

対して仏教が語る真実とは時代を超えて決して変わることがありません。「諸行無常」、「諸法無我」。お釈迦様が説かれた時代を超える不変のみ教えを共に聞かせていただきましょう。

第二次五位組

大遠忌団体参拝情報



日時 11月13日(日)~14日(月)の一泊二日

費用 35000円(おかみそり希望者は別途一万円が必要です)

締切 10月15日(土)まで

※※ 申込用紙は広濟寺ホームページの
トップページよりダウンロードできます

過去の大遠忌を振り返る
〜五十年前(七〇〇回大遠忌)〜

前回の六五〇回大遠忌に引き続き、今回は五十年前の七〇〇回大遠忌を振り返ります。

昭和三十六年(一九六一)年に七〇〇回大遠忌法要は勤められました。全二十五日間にわたって勤められた法要では実に五十万人を超える方が参拝されたそうです。予想をはるかに上回る参拝者に、当初予定された日程が五日間延長されたほど。

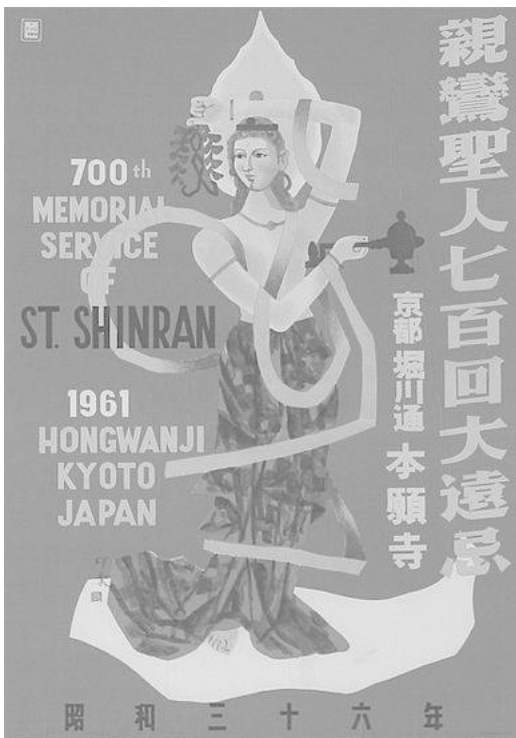
当時のエピソードとしてこういうものがあります。法要中、よく見える前方の参拝席をめぐって団体参拝の引率者と本願寺の担当者との間でトラブルが起こったとのこと。するとアルバイトの龍谷大学生が「ご開山様(親鸞聖人の前です)」とたしなめると、ピタリと止んだそう。

またこの大遠忌は「テレビ参拝」の新語も生まれました。まだテレビの全国放送が始まって間もなくという頃、この大法要が全国ネットで中継されたのです。

また御影堂に入りきれなかった参拝者のために、白洲

や増設参拝席には二十八台ものモニターが設置され、法要の様子を放映したのだそうです。

「テレビ参拝」といえば、今回の七五〇回大遠忌法要は全てインターネットによって世界に同時中継されています。この放送は西本願寺のホームページから見ることもできます。ご都合で京都までは行けないという方はお手軽に「ネット参拝」というのはいかがでしょう？



七百回大遠忌法要のポスター

仏事の疑問 Q & A

質問

蠟燭には色々ありますが、何をいれれば良いのですか？

蠟燭はお仏壇のお荘厳(飾り付け)の際に無くしてはならないものです。今回はこの蠟燭についてお話しします。

まず蠟燭の色についてです。

皆さんはどんな色の蠟燭を見たことがありますか？白色はもちろん、朱色あかもよく用いられます。他には金色、銀色の蠟燭なんてものもあるんですよ。

ではそのようなたくさん色がある蠟燭の使い分け方ですが、まず白色(白蠟)について。白蠟は毎日のお参りなどに用います。また法事などに用いる場合は三回忌までこの白蠟を使うことが多いです(注 銀



蠟の説明を参照)。

次に朱色の朱蠟しゆですが、これは浄土真宗で最も大切な法要である報恩講(ほんこさま)で用います。また法事では七回忌以降は朱蠟を用いることに定められています。

つまり白蠟は普段の時に用いて、朱蠟は特別な時に用いるということです(昔は朱蠟は高価なものでした)。

では、その他の金蠟・銀蠟についてですが、金蠟は仏前結婚式などおめでたい時に。そして銀蠟は葬儀や追悼法要、また三回忌までの法事に用います。ただしこれら金蠟・銀蠟

はそれぞれ朱蠟・白蠟で代用してもよいということになっていきます。「三回忌までの法事には白蠟を使うことが多い」という意味がわかっていただけではないでしょうか。銀蠟が置いてあるお店ってなかなかないですね。

次は蠟燭の種類について。蠟燭にも和洋があるってご存知でしたか？和蠟燭(以下「和蠟」と)西洋蠟燭(以下「洋蠟」)です。どちらを使わなければならぬという決まりなどはないので参考までに記しておきます。

和蠟と洋蠟の大きな違いはその原料にあります。和蠟は檀はぜなどからとった植物性の原料、洋蠟は重油から精製したパラフィンとよばれる石油系の原料を用いています。その違いから和蠟の方が油煙が少なく、またその煤すすも洋蠟に比べ仏壇の金箔を痛めにくいといわれています。

そしてもう一つの大きな違いは炎の燃え方。これは芯の違いによるものなのですが、和蠟独特の揺らめく炎からはやさしさと温もりが伝わってくるようです。

ただ残念ながら現在この和蠟燭を作る職人はごくわずか。後継者不足となっているようです。少々お高いですが特別な時などには是非和蠟燭を使ってみてはいかがでしょうか。



仏具のおみがきしてみませんか？

「おみがき」とは仏具を磨いてきれいにすること。広濟寺では報恩講に合わせて毎年「おみがき」をしています。

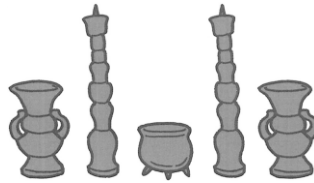
仏具には真鍮製(金色の仏具)と宣徳製(黒茶色の仏具)があります。それぞれ磨き方が違います。

真鍮製は金属磨きで、宣徳製は油で艶を出していきます。

今年の真鍮製のおみがきは十月二十二日(土)午前九時から夕方までを予定しております。

興味のある方は都合のつく時間にいつでもお越しください。

宣徳製のおみがきは毎年仏教婦人会の方々にしていただいております。十月の仏婦でしていただく予定です。



お知らせ

二〇二一年

ご自宅の仏具のおみがきの参考にも男女問わず是非お越しください。お待ちしております。

おみがき

十月二十二日(土)

午前九時より

報恩講

十一月五日(土)・六日(日)

午前九時半より

午後二時より

御講師

伏木組 龍善寺

山名 一徳師

御伝鈔拝読

十一月五日(土)

午後四時より

子供報恩講

十一月五日(土)

午後五時より

仏教婦人会報恩講

十一月五日(土)

午後七時より

御講師

新湊組 覚円寺 若院

青木 哲隆 師

第二次五位組

大遠忌団体参拝

十一月十三日(日)

〜十四日(月)

集合時間・場所 未定

※参加者には後日詳細を

ご連絡致します

正信偈を読む会

毎月第三土曜日

午後四時より

※十月はお休みします

広濟寺仏教婦人会

毎月第四土曜日

午後七時半より

編集後記

時の経つのは早いもので、今月で私(若院)もついに三十歳となりました。富山に戻ってから三年が過ぎましたのでまあそんなものなのでしょう(汗)。

仏教ではありませんが、孔子の言葉に「三十にして立つ」というのがあります。まずいなあと思う今日この頃。

一方お釈迦様の三十歳はどうだったか？悟りを求めて一生懸命苦行の真つ最中……

では親鸞聖人の三十歳は？法然聖人という師に出遇われて一生懸命にお聴聞……

そして私は……(再び汗)。

皆さんの三十歳はどうだったでしょうか？比べてみたら人それぞれで面白いものですね♪